

国際協力都市  
ハット市は  
どんなところ？



ハット市の特徴

- 首都ウェリントンの郊外都市**  
首都圏で2番目に大きく、ウェリントン市から車で約15分とほどよい立地
- 自然豊かで、羊が多い**  
なだらかな丘に囲まれ、川と海がある。「人より羊が多い」と言われる
- 先住民マオリの文化**  
先住民の文化が尊重されている。ハット市内でもさまざまなマオリ文化を体験できる
- 時差が少ない**  
他の英語圏の国に比べ時差が3時間と少なく、電話やネットでの交流におすすめ(サマータイムは4時間)

ハット市は人口約10万人、大都市の郊外にあり、教育に力を入れているなど、箕面市と似た部分も多い都市。豊かな自然を活かしたアウトドアスポーツが盛んです



『箕面市ハット市友好クラブ』  
会長 阿部 一郎さん



ハット市のソフトボールチーム来訪(2007)



ハット市

「私は2012年の市民訪問団で、ファームステイ(農園や牧場で滞在すること)をしました。迎えてくれたご夫婦が本当に親切でやさしかった。ハット市は人がいいんです」と語るのは、同クラブの市田良治さん。訪問団の仲間と一緒にバギーに乗ったり、NZワインを味わったりと、現地を楽しんだという。昨年10月にホストファミリーとしてハット市民を迎えた会長の阿部さんは「確かに初めの2日間ほどは緊張したけれど、ホストファミリーの体験はおすすめです。特に小・中学生を迎える場合、こちらに同じ年頃の子どもがいると打ち解けるのも早く、とてもよい異文化交流になると思います」と語る。

2人の話に共通していたのは、「英語は度胸」ということだ。「目の前に人がいるんだから、たとえ単語しか話せなくても、身振り手振りを使ってでも話さなければ。相手も一生懸命聞いてくれます。とにかく場数を踏むこと」と市田さん。話を通じた喜びは、さらに英語を勉強しようという、やる気につながるという。

気軽に英語を話せる機会となつていくのが、同クラブが市や「公益財団法人箕面市国際交流協会」と連携して『箕面市立多文化交流センター』で毎月行う「スカイプ交流会」だ。大きなテレビ画面をインターネットにつなぎ、事前に取り決めた月ごとのテーマについて、ハット市の市民とリアルタイムで交流できる。

「国際協力都市との交流の醍醐味について、阿部さんは「異文化理解を深めるだけでなく、むしろお互いの共通点への眼差しを育てられること。生活し、成長し、困難に向き合うという共通の営みを、時間をかけて共有し学び合えることにあります」と話す。2つの市が良い関係を築けるよう、同クラブは市民の手で活動を続けていく。

同クラブは2016年、設立20年を記念して「クラブ20周年記念式典」を行った。市から倉田哲郎箕面市長ほか5名の来賓を迎え、NZからのALIT(外国語指導助手)も参加。ハット市長夫妻や、ハット市の市民団体「ハット箕面友好クラブ」会長からもメッセージが届く和やかな会となったという。

この20年で英語力、そして国や文化の異なる人々とのコミュニケーション能力はますます重要になった。同クラブがハット市民と培ってきた友情が、若い世代にとって国際交流のきっかけにもなっているのだらう。



昨年12月16日、『箕面市立多文化交流センター』で行われた「スカイプ交流会」。「2017年の私のニュース」をテーマに、箕面市とハット市の参加者が交互に発表した

取材協力

箕面市ハット市  
友好クラブ

イベントの詳細や入会の手続きについてはホームページをチェック

<http://minoh-hutt.com/>

1~2月のおすすめイベント



ニュージーランド料理の集い 定員30名

直輸入した新鮮なラムを参加者全員で調理する人気イベント。「ジュージー」に焼き上げたラムローストを熱々で食べると本当に美味しい」とメンバーの市田さんもおすすめ

日時/2月25日(日)10:00~13:30  
場所/中央生涯学習センター3F料理実習室(箕面市箕面5-11-23)  
参加費/1,500円 申込/六角(電話 or FAX 072-728-1626)  
※今年からイベント名を「NZラム料理の集い」より変更

※各申込先は個人宅のため架電時間に注意を



英会話サロン

外国人のボランティア講師による、フリートーク形式の英会話サロン。初級・中級・上級に分かれ、テーマに沿ってディスカッションを行う

日時/毎月第3日曜日14:00~16:00  
場所/東生涯学習センター(箕面市粟生間谷西3-1-3)  
参加費/会員500円、非会員800円  
申込/川島(電話 072-728-1203)

間違いを恐れるよりも  
会話を楽しむことが大切



「NZラム料理の集い」



ハット市民と直接交流  
倉田箕面市長・森田教育長(当時)も参加した「第3回市民訪問団」(2012)



上手に書くコツは...  
「現地での書道体験教室」(2012)



「多民族フェスティバル」(2017)



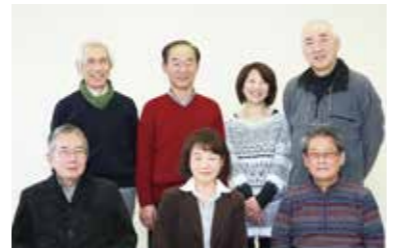
「NZワイン試飲会」



表紙にも登場!  
両市友好の証  
ハット市の丘に立つ「ハット箕面友好ハウス」

巻頭特集 遠くて近い国際交流  
箕面市ハット市友好クラブ

先住民マオリの文化と、イギリス領時代の影響が入り交じる自然豊かな国、ニュージーランド。遠く南半球のこの国に、箕面市の国際協力都市(姉妹都市)、ハット市がある。20年以上ハット市民と交流を続ける『箕面市ハット市友好クラブ』に話を聞いた。



『箕面市ハット市友好クラブ』  
運営委員のみなさん

昨年12月16日に行われた、同クラブ役員による運営会議。後列左から加藤さん、窪さん、東さん、片芝さん。前列左から川島さん、六角さん、市田さん。会議では最近行われたイベントの反省点や、これからの異文化交流のあり方が話し合われた

ハット市との国際交流をすすめるボランティアによる市民団体

ニュージーランド(以下、NZ)が持つ2つの大きな島のうち、北島の南端に位置するハット市。1995年に国際協力都市(姉妹都市)として提携を結んで以来、箕面市はハット市と様々な国際交流を続けている。

一方、市民主体で活動する団体もある。96年設立の『箕面市ハット市友好クラブ』(以下、同クラブ)には、英語やNZに関するメンバリー約60名が所属する。「市による国際交流が盛んだった時期も下火だった時期も、箕面市では市民の手でハット市との交流をつないできました」と会長の阿部一郎さん。同クラブは市民訪問団として三度現地を訪れ、ハット市長や現地の市民団体と友好を深めた。また毎月外国人のボランティア講師を招く「英会話サロン」や年に一度の「NZワイン試飲会」(11月)、「NZラム料理の集い」(2月)など、NZの文化に触れるイベントを開催。会員でなくても参加できる。